

中小企業で本当に役に立つ「IT経営」とは？

コンピュータ通信技術の目覚ましい進歩は、高性能なパーソナルコンピュータの低価格やインターネット、ブロードバンド環境の普及を促進して、「IT化」を一気に身近な存在にしてくれました。

今や、IT無しで企業の経営は語れない状況です。

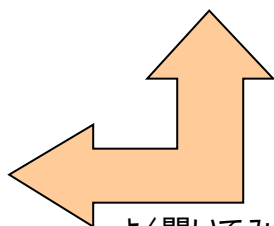
話題の日本版SOX法でも、大きな課題として「IT統制」の仕組みを構築していく必要があります。

そんな、必要不可欠なITですが、「情報システム部」といった専門部署を持たない中小企業の社長さんにお会いすると、よく下図のような愚痴をお聞きます。



- ◆ 情報システムが機能しない
- ◆ 社員が使いこなせない
- ◆ 情報が活用できない
- ◆ 導入後のコスト負担に耐えられない
- ◆ 投資効果が分からない
- ◆ 成果が出るまでにシステムが陳腐化する
- ◆ システムの改善が難しい
- ◆ セキュリティ面で損害を被る

- 情報化戦略が不明確
- 企業成熟度、情報リテラシーの不足
- 調達段階でのコミュニケーション不足
- コスト認識の甘さ(TCOを考慮)
- 業務の見直しの不足
- 拡張性への配慮不足
- セキュリティに対する認識不足

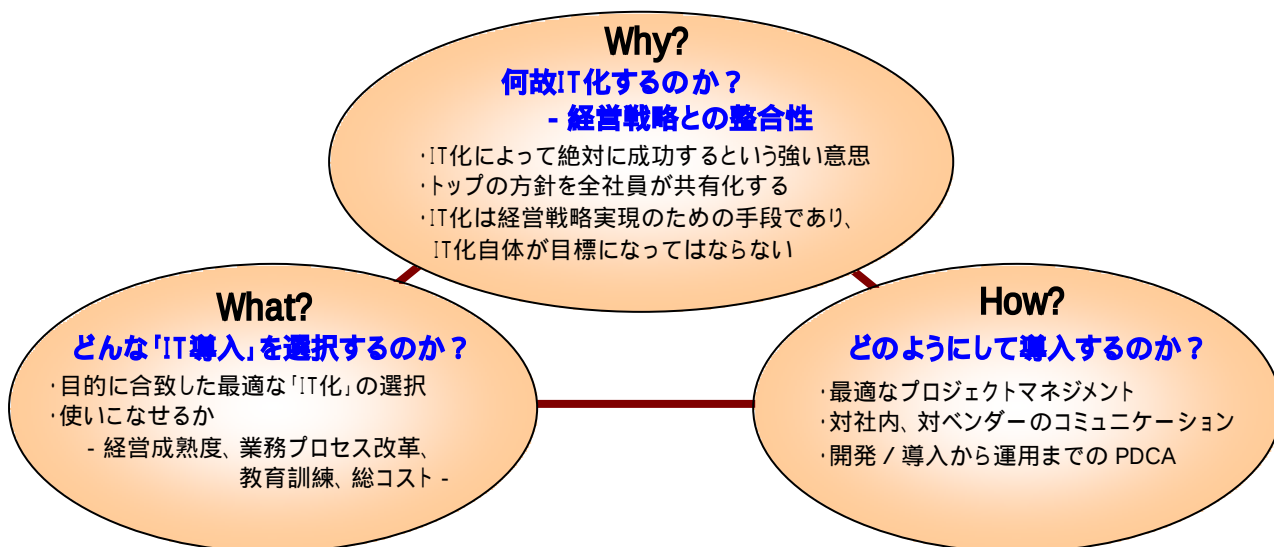


よく聞いてみると…

こうなってしまうからでは遅すぎます。

「IT経営」の第一歩は、経営者自らがしっかりと自社の戦略を持ち、厳しいビジネス環境をITを活用してどう勝ち残っていくかのビジョンを描くことです。

そして、下図の3つのポイントをしっかりと押えておいてください。



…「こりゃ、難しいぞ!」と思ったら、JMB Sにご相談ください!